



# 哲っちゃんの 今月の 太鼓本!

似顔絵・南伸舫

## 本屋大賞2016候補作決定!

第14回目の本屋大賞、これまでに3位が2回の辻村深月さん『朝が来る』(文藝春秋)が本命ではないかと、勝手に思っています。

### Profile



撮影・坂本真典

松田哲夫 (まつだてつお)

1947年東京都生まれ。編集者。書評家。筑摩書房顧問。著書に『印刷に恋して』『本に恋して』『緑もたけなわ』など。個人編集アンソロジーに『中学生までに読んでおきたい日本文学』(あすなろ書房)などがある。

イキ  
オシ!

幽玄の世界に独特の風合いを盛り込む

## 『よこまち余話』

木内 昇著 (中央公論新社)

この物語の舞台は東京の下町、時は昭和初期のようです。仕事がないお針子の駒江、皮肉屋の老婆トメ、けなげに生きる魚屋の兄弟、浩一と浩三、彼らは路地裏の長屋で、生業や暮らしを静かに営んでいます。そして、そこには、能楽師、「雨降りし」など、この世とあの世を行き来する人たちもやって来ます。ここは現し身の人間と死者とが、心を通わしあうことができる場所なのです。この妖異幻想譚は、どうやら能の幽玄的世界を背景に編み上げられたもののようです。しかし、それだけではありません。木内さんならではの風合いが、ここにはたっぷり盛り込まれています。例えば、それは独特な比喩表現として、ぼくたちの目の前に現れます。いつまでも焼き付けたい光景、ずっと噛み締めていた言葉が、この物語の随処にちりばめられています。



本体1,500円+税  
978-4-12-004814-2



生きている金属製の小動物

## 『赤瀬川原平のライカもいけど時計がほしい』 赤瀬川原平著 (シーズ・ファクトリー)

本体1,800円+税  
978-4-8191-1275-8



美術、漫画、小説、カメラ、路上、多彩なジャンルに独自の足跡を残した稀代の表現者。彼が最後に刮目したのが「時計」でした。小さくて、精密で、するりと丸く手に収まる、金属製の生きものの神秘と魅力の虜となり、「完璧な時計」を求めてさまざま壮大なオデッセイです。

河童の世界はユートピア

## 『水木しげる漫画大全集 河童シリーズ「全」』 水木しげる著 (講談社)

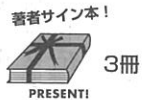
本体2,400円+税  
978-4-06-377560-0



水木さんが一番たくさん描いた妖怪漫画は河童でした。それは、河童が好きだっただけではありません。河童の暮らしに、いなが暮らしの思い出やラバウルの人たちの暮らしへのあこがれを重ね合わせていたようです。河童の世界は水木さんのユートピアだったのでしょうか。

## 『ですよねー』 いくしゅん写真 (青幻舎)

本体1,800円+税  
978-4-86152-524-7



奈良県出身(道理で町中に鹿がいる)中野区在住三十五歳の処女写真集です。町中や身の回りで起きた「小さな奇跡」(と言うよりは「脱力シーン」)を撮っています。デジカメでいくらでもシャッターを押せる時代なので、シャッターチャンスの微妙な外し方が勝負ですね。

## 『死はこわくない』 立花 隆著 (文藝春秋)

本体1,000円+税  
978-4-16-390378-1



話し言葉による臨死体験のやさしい入門書です。立花さんは、世界中で研究が進められている「臨死体験」をはじめ、生と死の科学の最先端を探り、ご自身のガンと心臓の手術の経験を踏まえて、「死はこわくない」と語りかけてくれます。だから、ちよつと気が楽になりますよ。

知の巨人が語る「死」の話

シャッターチャンスの外し方

読者プレゼントをご希望の方は巻末のとじ込みハガキに必要事項をご記入の上ご応募ください。  
締切: 4月9日(当日消印有効)。ご応募お待ちしております!

3月20日(日)23時13分より、NHKラジオ第1「ラジオ深夜便」にて松田哲夫さんの「私のおすすめボックス」が放送されます。